

アサリ中間育成について

福島県水産種苗研究所

平成13年度福島県水産種苗研究所事業報告書

平成14年度福島県水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(開発)－中間育成

分類コード 19-06-21000000

2 担当者

平田豊彦

3 要旨

殻長10mmの放流用種苗を効率的に生産する技術を開発するために、研究所内で平成13年6月にふ化させ、平均5.5mmまで飼育した稚貝240,000個を用い、松川浦内の3カ所で同年10月から翌年10月まで中間育成試験を行った。

供試貝は55cm四方の網籠に5つの密度(1籠当たり4,000個、6,000個、8,000個、10,000個、12,000個)で収容し、やぐらに1年間垂下して成長及び生残率を調査した。

(1) 成長

外海水の出入口近くで外海水の影響を直接受ける場所よりも、中央部の水路寄りで河川水の影響を受けやすい場所の方が成長が良く(1日当たりの成長量は16ミクロンで、「外海水の出入口近くの場所」の約2倍)、かつ、生残率も高かった(60%で、同1.2倍)。

いずれの場所も、冬期は成長が鈍るが、4月以降に水温が10℃を上回るようになると成長が顕著となった。

(2) 生残率

収容密度が低いほど生残率が高い傾向がみられた(「(1)の成長の良い場所」においては、4,000個区が87%、12,000個区が45%)。

同一場所であれば、収容密度が異なっても取上げ時の全重量には大きな差がなかった(同、1籠あたり3.8kg)。

この間の全体の生残率は57%で、平均10mmの稚貝137,000個を生産した。

4 その他の資料等

なし